

第2期 倉敷みらい創生戦略 進捗状況報告書 (令和5年度実績)

令和7年3月

企画財政局企画財政部 企画経営室

目次

この報告書について	1
基本目標① 結婚・出産・子育ての希望をかなえる	
・基本目標の実績値と検証 「合計特殊出生率」	4
・KPI（重要業績評価指標） 16指標	
基本目標② 受け継がれた歴史・文化の魅力を発信し、ひとを惹きつける	
・基本目標の実績値と検証 「対三大都市圏との社会増減」	10
・KPI（重要業績評価指標） 12指標	
基本目標③ 安心して働ける場をつくり、多様な人材の活躍を推進する	
・基本目標の実績値と検証 「市内従業者数の総数」	16
・KPI（重要業績評価指標） 20指標（うち未確定4）	
基本目標④ 地域をつなぎ、安心して暮らせる持続可能なまちづくりを進める	
・基本目標の実績値と検証 「市の人口（12月末）」	24
・KPI（重要業績評価指標） 24指標（うち未確定1）	
外部有識者の御意見	32

1 この報告書について

この報告書は、少子高齢・人口減少社会に対応するため、第2期倉敷みらい創生戦略に掲げた、本市の取組の進捗状況を確認、検証することを目的として作成しています。

2 第2期倉敷みらい創生戦略の策定

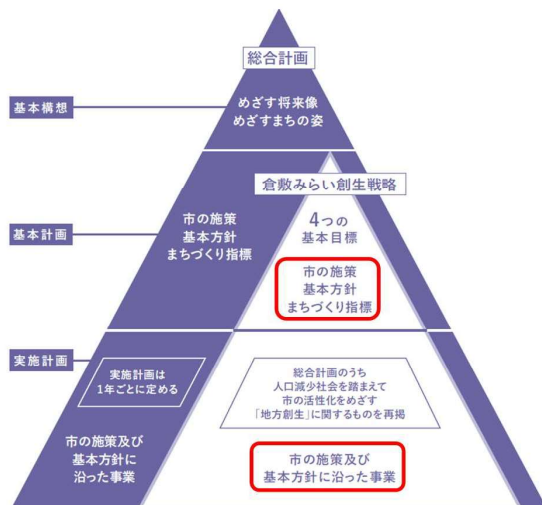
わが国は、平成20年をピークに人口減少の局面を迎えました。そこで、国は平成26年に「しごと」が「ひと」を呼び、「ひと」が「しごと」を呼び込む好循環をつくり、それを支える「まち」に活力を取り戻す「まち・ひと・しごと創生」の理念のもと、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。こうした地方創生への取組を国と地方が一体となって進めるため、倉敷市では、平成27年9月に地方版総合戦略である「倉敷みらい創生戦略」を策定・実施し、続いて令和3年度から令和7年度までを計画期間とする「第2期倉敷みらい創生戦略」を令和3年3月に策定しました。



3 倉敷市第七次総合計画における位置づけ

第2期倉敷みらい創生戦略は、市の最上位計画である倉敷市第七次総合計画のうち、少子高齢・人口減少社会に対応する「地方創生」を推進する施策等を抽出し、4つの政策分野（基本目標）に再編したものと位置づけられています。（右図参照）

したがって、第2期倉敷みらい創生戦略に掲げている、市の施策・基本方針・まちづくり指標（戦略ではKPI※1と記載）・実施する事業は、すべて倉敷市第七次総合計画に掲載している内容と一致しています。（右図の赤枠内）



※1：KPI（重要業績評価指標）

Key Performance Indicator の略称。施策ごとの進捗状況を検証するために設定する指標のこと

4 4つの基本目標

(1) 分野ごとの基本目標

地方創生の取組を4つの政策分野に分類し、その分野ごとに基本目標を設定しています。

基本目標①	結婚・出産・子育ての希望をかなえる
基本目標②	受け継がれた歴史・文化の魅力を発信し、ひとを惹きつける
基本目標③	安心して働ける場をつくり、多様な人材の活躍を推進する
基本目標④	地域をつなぎ、安心して暮らせる持続可能なまちづくりを進める

(2) 基本目標の進捗状況を測る指標

4つの基本目標には、それぞれ進捗状況を測るための指標が設定されており、具体的な数値目標として、戦略期間（5年間）終了時の令和7年度の目標値を掲げています。

指標	R元基準値	R7目標値	R5実績値
①合計特殊出生率	1.56	1.72	1.38
②対三大都市圏との社会増減	-863	±0	-914
③市内従業者数の総数※2	200,020	203,000	205,199(R3)
④市の人口（12月末）	482,250	480,000	475,914

※2：「市内従業者数の総数」は令和3年の実績値を記載しています。この数値は、経済センサスの数値を参考にしており、今回の経済センサス基礎調査は令和6年に実施、令和7年に速報値が公表される予定です。

(3) 指標の進捗状況（令和5年度）

指標の進捗状況を示す、令和5年度の実績値は前項の表（右端の列）のとおりです。

順調に数値を伸ばしているのは「市内従業者数の総数」で、他の3つの指標は急速な少子化や人口減少、東京圏への一極集中により、令和元年度基準値より数値が下がっています。

なお、各指標についての詳細は、次の頁を参照してください。

（指標①：4頁、指標②：10頁、指標③：16頁、指標④：24頁）

5 KPI（重要業績評価指標）

(1) 具体的な取組の進捗状況を測る指標

4つの基本目標のもとで実施する具体的な取組の進捗状況を測るため、全72のKPIを設定し、令和7年度の目標値を掲げています。

(2) 目標値の達成に向けた「実績値の評価」

令和7年度の目標値の達成に向けた進捗状況を測るため、各年度の実績値をもとに「A」「B」「C」「-」に区分して進捗状況の評価を行っています。

評価	基準	個数	割合
A	順調に進捗している	20個	27.8%
B	遅れはあるが、基準値より改善している	14個	19.4%
C	基準値と変わらない、または悪化している	33個	45.8%
-	判定ができないもの ・実績値が確定していないもの ・外的要因により評価の判定が難しいもの	5個	6.9%
	合計	72個	100%

（注）割合は少数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても100.0とならない。

(3) KPIの進捗状況(令和5年度)

前項の表のように、実績値が確定しているA・B・C評価72指標のうち、順調に進捗しているA評価の20指標(27.8%)や、基準値よりは改善したB評価の14指標(19.4%)に対して、基準値より数値が悪化したC評価は33指標(45.8%)となっています。

6 地方創生を推進する事業

(1) 掲載先

地方創生を推進する事業については、別冊子の「行政評価結果報告書」(倉敷市第七次総合計画の進捗状況をまとめたもの)に掲載しています。この冊子は市ホームページに掲載していますので、右のQRコード又はURLから参照してください。

令和6年度行政評価結果報告書(10MB)



https://www.city.kurashiki.okayama.jp/secure/125869/06kekka_gyousei.pdf

(2) 事業の参照手順

【手順1】

本冊子「KPI(重要業績評価指標)の実績一覧」の右端にある施策番号を確認します。

実績値	目標値	上段:評価結果の要因として考えられること	施策番号
R6	R7	下段:今後の取組方針	
-	-減少	A >施設整備及びAIを活用した入所事務支援システムの運用によるきめ細やかな入所案内が要因と考えられる。 >0~2歳児を併せ入れる施設利用促進事業の実施促進や、認定こども園への移行、必要となる係	1-6
-	-増加	A >企業の魅力 >育児休業制度などの利用や、子育てと仕事を両立できる子育てしやすい職場環境づくりを促進する。	1-6

子ども・子育て・教育<慈>

めざまちの姿

1-6 仕事と家庭の両立ができ、親が子どもとふれあう時間をもつことができる

市の施策

子育てと仕事がゆとりをもって両立できる

基本方針

*多様化する就学前保育・教育ニーズに応じて、地域性や年齢などを考慮しながら受入枠の拡大を図り、待機児童対策を進めます。

【手順3】

事業名の左に★マークがあるものが、地方創生を推進する事業です。

事業名	目的(Ⅰ)／令和5年度の主な実績(Ⅱ)／今後の方向性(Ⅲ)	R5年度決算額(千円)
★公立保育所等延長保育事業	(Ⅰ) 公立保育所等(Ⅱ) 公立保育所(7)延長保育需要(Ⅲ) 継続して実施する。	4,559

基本目標①

結婚・出産・子育ての希望をかなえる

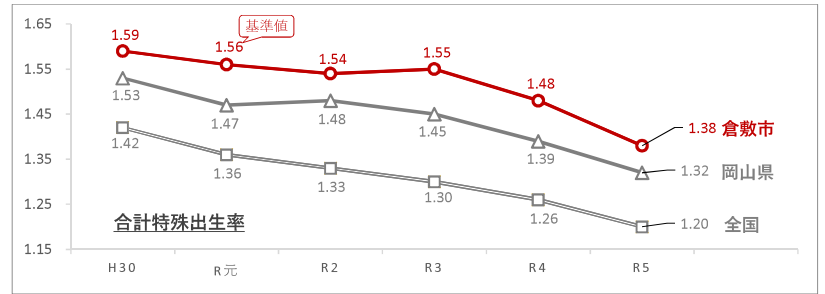
合計特殊出生率

R元基準値	R7目標値	R5実績値
1.56	1.72	1.38

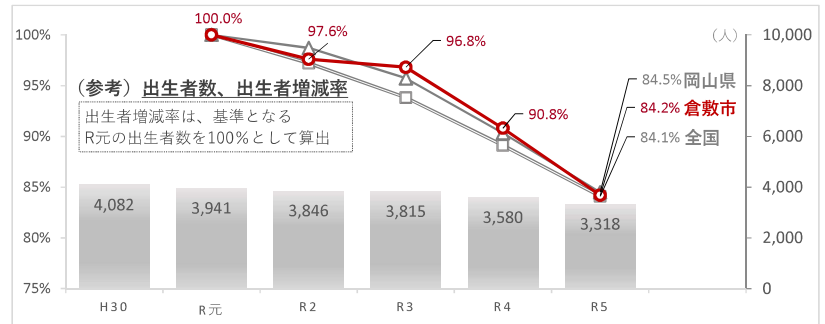
数値の推移

H30	R元	R2	R3	R4	R5
1.59	1.56	1.54	1.55	1.48	1.38

資料 保健所保健課



全国・岡山県の数値 | 資料 厚生労働省「人口動態統計」



資料 厚生労働省「人口動態統計」

一人の女性が一生の間に産む子どもの数を表す「合計特殊出生率」は、令和4年の1.48から0.10ポイント低下し、令和5年には1.38となった。全国的に非婚化・晩婚化・晩産化が進む中、本市の合計特殊出生率は全国平均の1.20や岡山県平均の1.32と比べて比較的高い数値を維持している。

出生者数については、令和元年からの減少率は、全国▲15.9ポイント、岡山県▲15.5ポイントに対し、本市▲15.8ポイントと全国や岡山県と同じく減少傾向にある。

基本目標① 結婚・出産・子育ての希望をかなえる

KPI(重要業績評価指標)の実績一覧

ア 心豊かな人間関係を育む学校教育の充実を図る

No.	KPI(重要業績評価指標)	単位	基準値	目標値	実績値		
			R元	R7	R3	R4	R5
1	「子どもの学校での教育がしっかりできている」と感じている人の割合	%	65.3	80	70.8	63.3	68.2
2	学校が楽しいと思う子どもの割合	%	78.0	90	80.6	82.7	82.2

イ 安心して出産・子育てできる環境を整える

No.	KPI(重要業績評価指標)	単位	基準値	目標値	実績値		
			R元	R7	R3	R4	R5
3	身近に子育ての相談ができるところがあると思っている人の割合【就学前児童の保護者】	%	79.9	82	79.5	76.6	76.4
4	身近に子育ての相談ができるところがあると思っている人の割合【小学生の保護者】	%	66.6	70	64.0	67.2	63.7
5	子育てを家族で協力して行っている人の割合【就学前児童の保護者】	%	89.5	92	90.0	89.1	88.0
6	子育てを家族で協力して行っている人の割合【小学生の保護者】	%	82.4	92	84.8	80.2	82.3
7	倉敷結婚相談所を通じた結婚成立数(累計)	組	26	170	8	27	39

ウ 子育てと仕事がゆとりをもって両立できる環境を整える

No.	KPI(重要業績評価指標)	単位	基準値	目標値	実績値		
			R元	R7	R3	R4	R5
8	保育所等の待機児童数	人	98 (R2)	0 (R8)	28 (R4)	18 (R5)	7 (R6)
9	これまで育児休業を取得したことがある人の割合【就学前児童の父親】	%	7.9	20	14.1	16.7	25.7
10	これまで育児休業を取得したことがある人の割合【就学前児童の母親】	%	79.3	91	85.2	87.6	88.4

○「網かけ」をした行は、令和7年度の目標達成に向けて順調に進捗しているA評価の指標です。

※1 令和7年度目標値の達成に向けた「実績値の評価」
A 評価：順調に進捗している
B 評価：遅れはあるが、基準値より改善している
C 評価：基準値と変わらない、または悪化している

※2 地方創生を推進する事業やKPIの実績値の算出方法は「行政評価結果報告書」(別冊)を参照

実績値		目指す方向性	実績値評価※1	上段:評価結果の要因として考えられること 下段:今後の取組方針	施策番号
R6	R7				
-	-	増加	B	> 校内研修等の学校訪問において、児童が楽しいと思える授業改善の助言や支援の成果が表れていると考えられる。 > 今後も児童生徒が分かった、楽しいと感じる授業改善の取組を継続していく。	1-3
-	-	増加	B	> 校内研修等の学校訪問において、児童が楽しいと思える授業改善や学級経営についての助言等の成果が表れていると考えられる。 > 児童生徒の力を伸ばす授業改善や児童生徒が主役となる特別活動等の充実を一層図る。	1-3

実績値		目指す方向性	実績値評価※1	上段:評価結果の要因として考えられること 下段:今後の取組方針	施策番号
R6	R7				
-	-	増加	C	> コロナ禍で外出する機会が減少したことにより、身近な相談場所についての情報に触れる機会が減少したためと考えられる。 > 児童館、地域子育て支援拠点等の相談場所の周知、アプリ等SNSによる相談体制を充実させていく。	1-5
-	-	増加	C	> 相談場所の周知が不十分であることが考えられる。 > アプリ等SNSによる子育てに関する情報発信を強化し、子育ての相談体制を継続して充実させていく。	1-5
-	-	増加	C	> ワークライフバランスへの気運が醸成しているものの、様々な制限が解除されたことによる生活の変化も要因として考えられる。 > 地域での子育て支援の充実を図り、家族が協力して子育てをすることの大切さを継続して啓発していく。	1-5
-	-	増加	C	> ワークライフバランスへの気運が醸成しているものの、目標値に達していない要因としては、様々な制限が解除されたことによる生活の変化が考えられる。 > 地域での子育て支援の充実を図り、家族が協力して子育てをすることの大切さを継続して啓発していく。	1-5
-	-	増加	B	> 出会いの手段が多様化していること、また、同じ機能を持つ「おかやま出会い・結婚サポートセンター」が、利便性を高めキャンペーンや広告宣伝により会員数を増加させていることが影響していると考えられる。 > 高梁川流域圏内での認知度向上を図り、会員の増加に努める。	1-5

実績値		目指す方向性	実績値評価※1	上段:評価結果の要因として考えられること 下段:今後の取組方針	施策番号
R6	R7				
-	-	減少	A	> 施設整備及びA1を活用した入所事務支援システムの運用によるきめ細やかな入所案内が要因と考えられる。 > 0~2歳児を受け入れる地域型保育事業の実施促進や、認定こども園への移行、必要となる保育士の確保	1-6
-	-	増加	A	> 企業の制度整備やワークライフバランスへの気運が醸成していることが要因と考えられる。 > 育児休業制度などの利用や、子育てと仕事を両立できる子育てしやすい職場環境づくりを促進する。	1-6
-	-	増加	A	> 企業の制度整備やワークライフバランスへの気運が醸成していることが要因と考えられる。 > 育児休業制度などの利用や、子育てと仕事を両立できる子育てしやすい職場環境づくりを促進する。	1-6

基本目標① 結婚・出産・子育ての希望をかなえる

KPI(重要業績評価指標)の実績一覧

エ 学校・園、地域、家庭が連携して子どもたちを見守り、安全・安心に成長できる環境を整える

No.	KPI(重要業績評価指標)	単位	基準値	目標値	実績値				
			R元	R7	R3	R4	R5		
11	様々な場面で困った時に相談できる相手がいる保護者の割合【就学前児童の保護者】	%	92.2	95	91.8	89.4	90.3		
12	様々な場面で困った時に相談できる相手がいる保護者の割合【小学生の保護者】	%	85.0	90	83.4	84.2	82.5		
13	学校・家庭・地域が連携した事業に参加した子どもの数	人	269,474	286,000	148,591	144,824	183,879		
14	地域の人に支えてもらって子育てをしていると思う人の割合【就学前児童の保護者】	%	44.7	47	40.2	36.1	35.4		
15	地域の人に支えてもらって子育てをしていると思う人の割合【小学生の保護者】	%	50.0	55	47.1	46.0	43.7		
16	子どもと将来の夢や目標について家庭で話をする小学生の保護者の割合	%	86.2	90	85.2	84.8	85.3		

○「網かけ」をした行は、令和7年度の目標達成に向けて順調に進捗しているA評価の指標です。

※1 令和7年度目標値の達成に向けた「実績値の評価」
 A 評価：順調に進捗している
 B 評価：遅れはあるが、基準値より改善している
 C 評価：基準値と変わらない、または悪化している

※2 地方創生を推進する事業やKPIの実績値の算出方法は「行政評価結果報告書」(別冊)を参照

実績値		目指す方向性	実績値評価※1	上段:評価結果の要因として考えられること 下段:今後の取組方針	施策番号※2
R6	R7				
-	-	増加	C	> 就学前児童の保護者が抱く困りごとについて相談先の周知が十分でない可能性がある。 > こども未来部を中心に就学前児童がいる世帯のニーズ等の把握に努め、必要な相談窓口の周知方法の改善を図る。	1-7
-	-	増加	C	> コロナ禍等により小学生の生活や文化が変化したことで、相談内容も変化し、保護者も相談しづらい可能性がある。 > 特定の施策に限らず、小学生に関わる全ての部署や学校が主体的に相談に応じられるよう連携体制の改善を図る。	1-7
-	-	増加	C	> 前年度に比べ参加人数は増加しているが、子ども教室の開催に必要なボランティア数の減少とともに子ども教室の規模も縮小したため、目標に届かなかった。 > 参加者数増加に向けて、子ども教室の開催数や内容を充実させるためのプログラム研修や、開催に必要なボランティアを確保するための啓発活動を行なっていく。	1-7
-	-	増加	C	> 生活様式の変化により、地域における活動への参加が減少していることが考えられる。 > 福祉や教育、地域が協働し、地域の子育て力を高め、総合的な支援体制の充実を図っていく。	1-7
-	-	増加	C	> 生活様式の変化により、地域における活動への参加が減少していることが考えられる。 > 福祉や教育、地域が協働し、地域の子育て力を高め、総合的な支援体制の充実を図っていく。	1-7
-	-	増加	C	> 保護者自身が将来に見通しをもちにくく、こどもの夢や目標に寄り添うことが困難になっている可能性がある。 > 子ども生活・学習支援事業において、保護者支援の充実を図るとともに、他事業との連携強化に努める。	1-7

KPIについては「保育所等の待機児童数」「これまで育児休業を取得したことがある人の割合」等、18.8%（16指標のうち3指標）が順調に進捗している。

今後も、結婚、妊娠、出産、子育て支援の充実をはじめとして、出会いの場の提供や、職場や地域社会全体で子育てを支援していく環境の整備などに引き続き取り組むとともに、安心できる環境のもとで結婚・出産・子育てができるよう国の子育て支援策とも連携して、子育て政策の更なる推進に取り組んでいく。

基本目標②

受け継がれた歴史・文化の魅力を発信し、 ひとを惹きつける

対三大都市圏との社会増減（転入者数－転出者数）

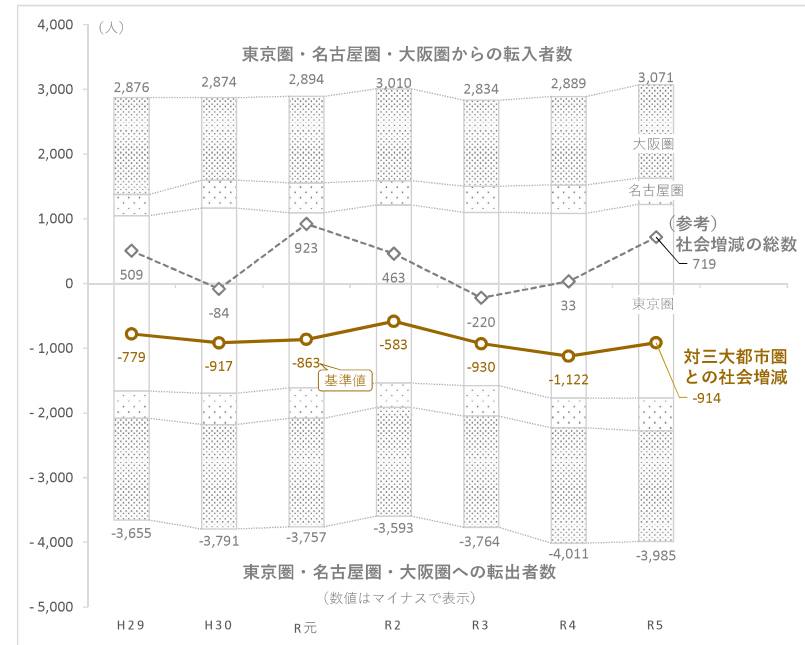
単位：人

R元基準値	R7目標値	R5実績値
▲ 863	±0	▲ 914

数値の推移

H30	R元	R2	R3	R4	R5
▲ 917	▲ 863	▲ 583	▲ 930	▲ 1,122	▲ 914

資料 総務局総務部総務課「倉敷市統計書」



「対三大都市圏との社会増減」について、令和2年は新型コロナウイルス感染症の感染拡大を背景に、東京圏・大阪圏から本市への転入者の増加、名古屋圏への転出者の減少といった流れが生まれ、一時的に数値が改善した。しかし、令和3年以降はその流れも再び感染拡大前の状況に戻り、令和5年も▲914人と昨年よりは改善しているものの、対三大都市圏への流出が続いている。

また、参考として、対三大都市圏に限定しない「社会増減の総数」は、平成30年7月豪雨災害の影響を除いて過去10年ほど「社会増」を維持しており、令和3年は県外からの転入者の減少傾向もあって▲220人と減少に転じたが、令和5年は719人と、令和4年に続き「社会増」となっている。

基本目標② 受け継がれた歴史・文化の魅力を発信し、ひとを惹きつける

KPI(重要業績評価指標)の実績一覧

ア 文化芸術活動を振興する

No.	KPI(重要業績評価指標)	単位	基準値	目標値	実績値		
			R元	R7	R3	R4	R5
1	生活の中で文化的活動(鑑賞と実践のどちらでも可)を行っている人の割合	%	30.5	40	26.4	26.7	28.5
2	文化施設の利用者数	人	450,793	645,000	215,818	389,073	432,707

イ 歴史文化や伝統の保存・継承と活用を図る

No.	KPI(重要業績評価指標)	単位	基準値	目標値	実績値		
			R元	R7	R3	R4	R5
3	後世に伝えたい歴史文化や伝統が継承されていると思っている人の割合	%	57.8	62	58.6	58.7	62.3
4	子どもと一緒に地域の伝統行事に参加したことがある人の割合	%	65.3	73	50.2	51.9	56.0

ウ 倉敷の魅力を発信し、受入環境を整備して交流人口の増大を図る

No.	KPI(重要業績評価指標)	単位	基準値	目標値	実績値		
			R元	R7	R3	R4	R5
5	市内主要観光地の観光客数	千人	5,208	5,800	2,043	3,364	4,616
6	市内宿泊客数	千人	949	1,100	571	760	919
7	シティセールス・観光・日本遺産関連ウェブサイトへの訪問回数(セッション数)と、シティセールス・観光関連フェイスブックの投稿が届いた人数(リーチ数)の合計	件	4,340,259	4,578,000	2,712,984	3,046,041	2,308,466
8	シティセールスに関するタグづけをされている投稿回数(累計)	回	9,200	33,200	22,475	29,987	35,621
9	移住促進施策を通じた移住世帯数(累計)	世帯	20	120	24	91	158

○「網かけ」をした行は、令和7年度の目標達成に向けて順調に進捗しているA評価の指標です。

※1 令和7年度目標値の達成に向けた「実績値の評価」
 A 評価：順調に進捗している
 B 評価：遅れはあるが、基準値より改善している
 C 評価：基準値と変わらない、または悪化している

※2 地方創生を推進する事業やKPIの実績値の算出方法は「行政評価結果報告書」(別冊)を参照

実績値		目指す方向性	実績値評価※1	上段:評価結果の要因として考えられること 下段:今後の取組方針	施策番号
R6	R7				
-	-	増加	C	※新型コロナウイルスによる制限が解除され、以前の水準に戻りつつある状況のためと考えられる。 ※ウィズコロナを意識し、感染症対策を行いながら文化活動を促す事業の継続・拡大を行う。	2-1
-	-	増加	C	※新型コロナウイルスによる制限が解除され、以前の水準に戻りつつある状況のためと考えられる。 ※ウィズコロナを意識し、感染症対策を行いながら事業の継続・拡大を進めていく。	2-1

実績値		目指す方向性	実績値評価※1	上段:評価結果の要因として考えられること 下段:今後の取組方針	施策番号
R6	R7				
-	-	増加	A	※文化財や史跡公園等の適切な保存と利用しやすい環境の維持を行い、文化財の保護意識の醸成を図っているため。 ※引き続き、環境整備や文化財の保護思想の普及に努め、文化財の保存と活用及び継承に取り組む。	2-2
-	-	増加	C	※新型コロナウイルスによる制限が解除され、以前の水準に戻りつつある状況のためと考えられる。 ※新型コロナウイルス感染症などの社会状況を踏まえつつ、継続して目標値達成を目指す。	2-2

実績値		目指す方向性	実績値評価※1	上段:評価結果の要因として考えられること 下段:今後の取組方針	施策番号
R6	R7				
-	-	増加	C	※新型コロナウイルスが5類に移行し、観光需要が回復してきたため。 ※国内外への情報発信、インバウンド誘客に向けた施策に取り組んでいく。	2-8
-	-	増加	C	※新型コロナウイルスが5類に移行し、観光需要が回復してきたため。 ※コンベンション誘致活動の強化、インバウンド誘客に向けた施策に取り組んでいく。	2-8
-	-	増加	C	※依然としてイベント開催等がコロナ流行前の水準に回復していないことから、各サイトへの投稿にも影響している。 ※引き続きウェブコンテンツを充実させるとともに、効果的な情報発信を行い、各サイトへの誘導を行う。	2-8
-	-	増加	A	※要件を満たす秀逸な投稿を積極的にリポストすることにより、フォロワー獲得とともに間接的な拡散が図れた。 ※今後もリポスト運用を継続するとともに、本市への観光誘客や移住等を促進するための魅力発信に積極的に努める。	2-8
-	-	増加	A	※WEBサイトやSNSでの情報発信等に加え、移住体験ツアー等の実施により、認知度向上を図ることができた。お試し住宅の稼働状況も堅調に推移しており、目標を上回る値となった。 ※暮らしの魅力を中心に積極的に情報発信を継続する。また、全国的に高まる移住への関心を本市へ向けられるよう地域団体等と連携を図り効果的な施策を行う。	2-8

基本目標② 受け継がれた歴史・文化の魅力を発信し、ひとを惹きつける

KPI(重要業績評価指標)の実績一覧

エ 歴史的・魅力的な景観の形成を推進する

No.	KPI(重要業績評価指標)	単位	基準値	目標値	実績値		
			R元	R7	R3	R4	R5
10	歴史的・魅力的な景観が保全されていると感じている人の割合	%	48.8	53	42.7	45.6	45.8
11	倉敷市の景観がよくなったと感じている人の割合	%	35.8	42	40.9	43.4	43.7
12	倉敷市の景観をよくする取組に関わりたいと思う人の割合	%	44.1	50	32.2	31.6	33.5

○「網かけ」をした行は、令和7年度の目標達成に向けて順調に進捗しているA評価の指標です。

※1 令和7年度目標値の達成に向けた「実績値の評価」
 A 評価：順調に進捗している
 B 評価：遅れはあるが、基準値より改善している
 C 評価：基準値と変わらない、または悪化している

※2 地方創生を推進する事業やKPIの実績値の算出方法は「行政評価結果報告書」(別冊)を参照

実績値		目指す方向性	実績値評価※1	上段:評価結果の要因として考えられること 下段:今後の取組方針	施策番号※2
R6	R7				
-	-	増加	C	≫伝統的な建物の修理や歴史的景観の維持などの取組について、広報や周知が充分ではなかったため。 ≫今後も引き続き、伝統的建造物群保存地区などの建物を修理、修景に対する支援を行っていくとともに、広報、周知を図る。	3-11
-	-	増加	A	≫倉敷市都市景観条例に基づく届出、支援事業等の成果が出ているものと考えられる。 ≫今後も引き続き届出、支援事業等を活用した景観誘導を継続する。	3-11
-	-	増加	C	≫生活環境の多様化等により、時間を割いてまで景観の取組に携わりたいと思う人が少ないと考えられる。 ≫景観に配慮した建築計画となるように誘導し、良好な景観整備を進めることで、まちをより良くしたいという気運を醸成する。	3-11

KPIについては「シティセールスに関するタグづけをされている投稿回数(累計)」「倉敷市の景観がよくなったと感じている人の割合」等、順調な進捗となったのは33.3%(12指標のうち4指標)であった。

今後は、G7 関係関係会合を2度開催したまち、3つの日本遺産のストーリーが認定されたまちとして、文化的なまちの価値を高め、倉敷ならではの心に刻まれるMICE誘致を推進するとともに、倉敷の魅力を活かした観光資源開発やイベント等を実施することにより、観光客数を増加させ、地域経済の活性化を図る。また、移住相談会の開催、お試し住宅の運営等や、中学・高校に地元企業を派遣して企業の特徴や魅力を体験する講座の開催などにより、移住定住の促進や若者の地元就職支援に取り組んでいく。

基本目標③

安心して働ける場をつくり、 多様な人材の活躍を推進する

市内従業者数の総数

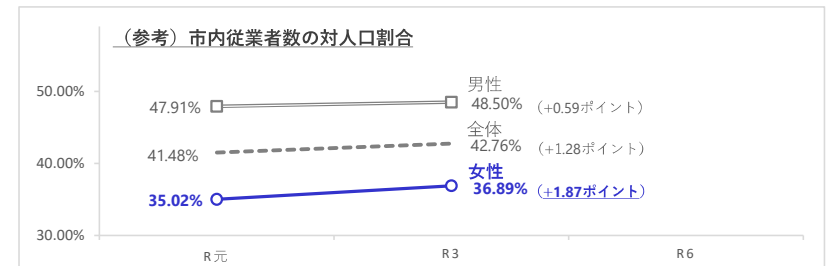
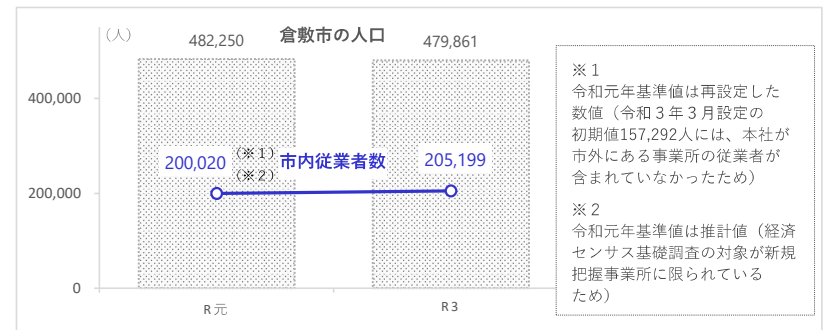
単位：人

R元基準値	R6目標値	R3実績値
200,020 ^(※1) (※2)	203,000	205,199

数値の推移

R元	R3	R6
200,020	205,199	(令和7年公表予定)

資料 総務省・経済産業省「経済センサス基礎調査・活動調査」



人口の数値 | 資料 総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」

「市内従業者数の総数」は、令和元年の基準値200,020人に対して、令和3年は205,199人と目標値を超えて増加している。（次回の経済センサス基礎調査は令和6年に実施、令和7年に速報値が公表される予定）

また、市内従業者数を対人口割合で見ても、令和3年までの2年間で全体的に1.28ポイントの増加となっている。さらに男女別で見ると、女性の従業者が1.87ポイント上昇しており、就業に対する女性の意欲の高まりが見られる。

基本目標③ 安心して働ける場をつくり、多様な人材の活躍を推進する

KPI(重要業績評価指標)の実績一覧

ア その人らしさが尊重され、多様な価値観や生き方を認め合い、人権が守られる社会をつくる

No.	KPI(重要業績評価指標)	単位	基準値	目標値	実績値		
			R元	R7	R3	R4	R5
1	「男は仕事、女は家庭」という考え方に同感しない人の割合	%	51.6	63	56.3	58.5	59.4
2	地域社会の一員として生活できていると感じている外国人の割合	%	43.0	50	46.2	51.9	40.0

イ 一人ひとりが生涯を通して行う学びを支援するとともに、その学びによる地域の活性化を推進する

No.	KPI(重要業績評価指標)	単位	基準値	目標値	実績値		
			R元	R7	R3	R4	R5
3	倉敷市役所でのインターンシップ受入人数	人	47	62	65	72	63

ウ 家庭や仕事と生活の調和がとれるよう支援する

No.	KPI(重要業績評価指標)	単位	基準値	目標値	実績値		
			R元	R7	R3	R4	R5
4	自分や家庭の事情に合った働き方ができていると思っている人の割合	%	73.2	82	75.2	71.1	73.2
5	余暇時間を有意義に過ごすことができていると思っている人の割合	%	60.6	65	55.9	54.9	57.2
6	働いている職場が、子育てに対する理解があると思っている人の割合	%	66.1	70	69.1	71.1	70.0

エ 新型コロナウイルス感染症の影響を受けて縮小した経済を早期に復興するため、産業競争力の強化と地場産業の振興、雇用の確保・充実を図る

No.	KPI(重要業績評価指標)	単位	基準値	目標値	実績値		
			R元	R7	R3	R4	R5
7	自分の仕事にやりがいを感じている人の割合	%	69.3	75	65.9	65.2	70.6
8	市内製造業粗付加価値額	億円	6,420 (H30)	6,495 (R3)	-	5,597 (R3)	-
9	市内高等教育機関(大学・短期大学等)卒業生の市内就職率	%	21.9	24	22.0	18.6	16.4
10	市内情報通信業売上	億円	89.2 (H28)	108.5 (R3)	-	95.6 (R3)	-

○「網かけ」をした行は、令和7年度の目標達成に向けて順調に進捗しているA評価の指標です。

※1 令和7年度目標値の達成に向けた「実績値の評価」
 A 評価：順調に進捗している
 B 評価：遅れはあるが、基準値より改善している
 C 評価：基準値と変わらない、または悪化している

※2 地方創生を推進する事業やKPIの実績値の算出方法は「行政評価結果報告書」(別冊)を参照

実績値		目指す方向性	実績値評価※1	上段：評価結果の要因として考えられること 下段：今後の取組方針	施策番号
R6	R7				
-	-	増加	A	> 固定的性別役割分担意識が改善傾向にあるため。 > 固定的性別役割分担意識解消のための各種啓発事業や、積極的な女性登用に取組む事業所への認定制度を継続する。	1-1
-	-	増加	C	> 在住外国人が増加しており、新規在住者が地域の行事に参加するまでにはある程度時間が必要と考えられる。 > 外国人コミュニティや市内日本語教室とのさらなる連携により多文化共生事業の一層の充実を図る。	1-1

実績値		目指す方向性	実績値評価※1	上段：評価結果の要因として考えられること 下段：今後の取組方針	施策番号
R6	R7				
-	-	増加	A	> 職員採用PR活動など強化して実施しており、市の仕事に興味のある学生が増加していることなどが考えられる。 > 継続して職員採用PR活動に取り組むとともに、受入部署を拡大するなど受入人数の増加につなげる。	1-9

実績値		目指す方向性	実績値評価※1	上段：評価結果の要因として考えられること 下段：今後の取組方針	施策番号
R6	R7				
-	-	増加	C	> コロナ後、社会活動が再開されていく中、テレワークの縮小や業務量増大が影響したと考えられる。 > 高梁川流域女性活躍推進事業を通じ、各人の事情に応じた多様な働き方の啓発を継続する。	2-4
-	-	増加	C	> 物価高騰等による生活の不安から、余暇を楽しむゆとりを感じづらいためと考えられる。 > リフレッシュできる環境の整備を促進するため、有給休暇取得促進リーフレット等を活用し、企業へ啓発を行う。	2-4
-	-	増加	A	> 育休、短時間勤務制度の整備や、男性の育児参画気運醸成により、職場で協力し合う体制整備が推進されたと考えられる。 > 多様な人材の活用・働き方を啓発・推進するため、「高梁川流域ワークエンゲージメント推進事業」を実施する。	2-4

実績値		目指す方向性	実績値評価※1	上段：評価結果の要因として考えられること 下段：今後の取組方針	施策番号
R6	R7				
-	-	増加	B	> 物価高騰に賃金上昇が追いつかず、仕事を頑張っても生活の豊かさに繋がりにくい状況であるためと考えられる。 > ワークエンゲージメントを高める働き方を推進するため、働き方改革の事例等を紹介するセミナーを開催する。	2-5
-	-	増加	-	※調査は5年に1度実施	2-5
-	-	増加	C	> 市内企業で働く魅力を知り、ライフプランやキャリアプランに照らし合わせて考える機会の提供が十分でなかったことが考えられる。 > 市内10大学等と連携し、市内就職への理解深化など倉敷市への愛着・定着に繋げる取組を行う。	2-5
-	-	増加	-	※調査は5年に1度実施	2-5

基本目標③ 安心して働ける場をつくり、多様な人材の活躍を推進する

KPI(重要業績評価指標)の実績一覧

オ 商業振興による地域の活性化を図るとともに、新分野への進出・起業がしやすい環境を整える

No.	KPI(重要業績評価指標)	単位	基準値	目標値	実績値		
			R元	R7	R3	R4	R5
11	商店街の休日1日当たりの歩行者・自転車通行量	人	5,720 (R5)	6,000	-	-	5,720
12	創業サポートセンターを活用した創業件数	件	353	375	382	422	366
13	商業年間商品販売額	百万円	1,047,738 (H28)	1,100,125 (R3)	-	1,020,655 (R3)	-

カ 活力ある農業や漁業を守り、豊かな資源を次世代に継承する

No.	KPI(重要業績評価指標)	単位	基準値	目標値	実績値		
			R元	R7	R3	R4	R5
14	新規就農者数	人	15	60	18	33	46
15	担い手の農地利用集積率	%	21.3	32.1	24.3	25.0	26.9
16	漁業所得	万円	405	453	335	310.5	345

キ 障がい者が社会参加でき、住み慣れた地域で安心して暮らすことのできる生活を支援する

No.	KPI(重要業績評価指標)	単位	基準値	目標値	実績値		
			R元	R7	R3	R4	R5
17	社会参加できていると思う障がい者の割合	%	22.3 (H30)	27	19.8 (R2)	-	19
18	一般企業の障がい者雇用率	%	2.77	2.87	2.61	2.55	2.59

○「網かけ」をした行は、令和7年度の目標達成に向けて順調に進捗しているA評価の指標です。

※1 令和7年度目標値の達成に向けた「実績値の評価」
A 評価：順調に進捗している
B 評価：遅れはあるが、基準値より改善している
C 評価：基準値と変わらない、または悪化している

※2 地方創生を推進する事業やKPIの実績値の算出方法は「行政評価結果報告書」(別冊)を参照

実績値		目指す方向性	実績値評価※1	上段：評価結果の要因として考えられること 下段：今後の取組方針	施策番号※2
R6	R7				
-	-	増加	-	※R5から調査方法を、実地調査から民間のビックデータを活用した分析調査に変更したことに伴い、R5実績値を基準値として再設定。R7の目標値は基準値より5%増に設定した。今後は、商工団体や商店街組織と連携し、賑わいの創出に向けた取組を行っていく。	2-6
-	-	増加	B	※創業サポートセンターの窓口相談やセミナーの周知により、創業支援を行ったため。 ※商工団体や金融機関等と連携し、事業者支援を行っていく。	2-6
-	-	増加	-	※調査は5年に1度実施	2-6

実績値		目指す方向性	実績値評価※1	上段：評価結果の要因として考えられること 下段：今後の取組方針	施策番号※2
R6	R7				
-	-	増加	A	※就農相談会における就農希望者と産地のマッチングや新規就農者向け支援制度の効果的な情報提供を実施できたため。 ※関係機関との連携により新規就農者向け支援に継続して取り組む。	2-7
-	-	増加	B	※地域計画の取組や農地利用最適化推進委員の最適化活動により、担い手への農地集積が進んだと考えられる。 ※引き続き、認定農業者等担い手への農地の集積に取り組む。	2-7
-	-	増加	C	※漁獲量の減少に伴い収入が減少したことが要因として考えられる。 ※引き続き、関係機関との連携により浜プランの推進に努め、漁業者の所得向上を目指す。	2-7

実績値		目指す方向性	実績値評価※1	上段：評価結果の要因として考えられること 下段：今後の取組方針	施策番号※2
R6	R7				
-	-	増加	C	※新型コロナウイルス感染症による制限の影響が残っているとみられる。 ※建築物等のバリアフリー化、意思疎通支援体制の充実等、あらゆる施策をより一層進め、社会的障壁の除去を図る。	4-4
-	-	増加	C	※新型コロナウイルス感染症による雇用状況の悪化の影響が残っているとみられる。 ※公共職業安定所や倉敷障がい者就業・生活支援センター等と連携することにより、就業機会の拡大に努める。	4-4

基本目標③ 安心して働ける場をつくり、多様な人材の活躍を推進する

KPI(重要業績評価指標)の実績一覧

ク 高齢者の学びや活躍の場を充実する

No.	KPI(重要業績評価指標)	単位	基準値	目標値	実績値		
			R元	R7	R3	R4	R5
19	シルバー人材センター会員数	人	1,529	1,750	1,459	1,380	1,411
20	社会参加している高齢者の割合 《社会参加の例》 ボランティア、スポーツや趣味、グループ、学習活動、老人クラブ、ふれあいサロンなど通いの場、町内会・自治会、仕事など	%	30.3	60	22.7	40.6	40.3

○「網かけ」をした行は、令和7年度の目標達成に向けて順調に進捗しているA評価の指標です。

※1 令和7年度目標値の達成に向けた「実績値の評価」
A 評価：順調に進捗している
B 評価：遅れはあるが、基準値より改善している
C 評価：基準値と変わらない、または悪化している

※2 地方創生を推進する事業やKPIの実績値の算出方法は「行政評価結果報告書」(別冊)を参照

実績値		目指す方向性	実績値評価※1	上段:評価結果の要因として考えられること 下段:今後の取組方針	施策番号※2
R6	R7				
-	-	増加	C	> 定年の延長などの影響により、当センターへ就労する高齢者が減少したと思われる。 > 引き続き、広報等で会員を広く募集する。	4-8
-	-	増加	B	> 新型コロナウイルスの影響により、集う活動を控えている状況があると思われる。 > サロン等の高齢者が社会参加できる場の充実に努める。	4-8

KPIについては「「男は仕事、女は家庭」という考え方に同感しない人の割合」、「働いている職場が、子育てに対する理解があると思っている人の割合」「新規就農者数」など、20.0%（20指標のうち4指標）が順調に進捗している。

今後も、だれもが安心して働き続けられる労働環境や多様な就労形態を選択できる環境の整備のため、企業や労働者が実施する取組を支援するとともに、学校や地元企業とも連携して職業観の育成に努める。また、繊維産業をはじめとする地場産業の活性化、中小企業の人材不足等の課題解決に向けた副業人材の活用支援等による人材の確保、地域資源の魅力発信、市内の事業所等で働く若者の職場定着や市内定住を目指したワークショップの開催などに取り組み、地域産業の競争力強化や雇用の確保・充実を図る。

基本目標④

地域をつなぎ、安心して暮らせる 持続可能なまちづくりを進める

市の人口（12月末）

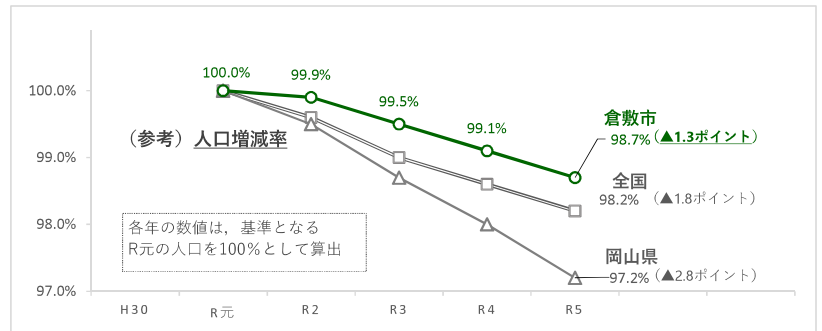
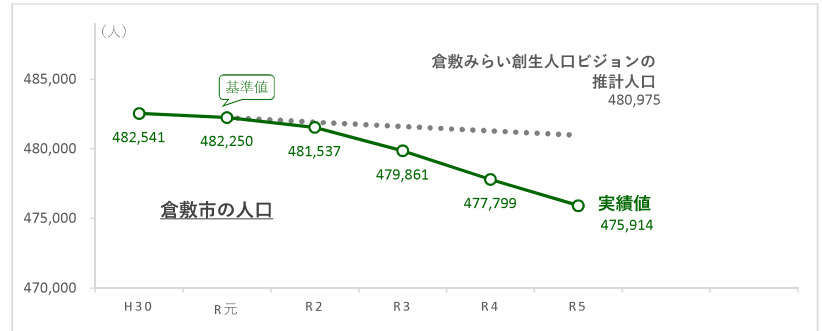
単位：人

R元基準値	R7目標値	R5実績値
482,250	480,000	<u>475,914</u>

数値の推移

H30	R元	R2	R3	R4	R5
482,541	482,250	481,537	479,861	477,799	475,914

資料 総務局総務部総務課



全国・岡山県の数値 | 資料 総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」

平成28年をピークに減少に転じた本市の人口は、令和元年の基準値482,250人から推計より早いペースで減少し、令和3年に48万人を割り込み、令和5年は475,914人と減少している。

一方、令和元年から令和5年の「人口増減率」について全国や岡山県の状況と比べると、全国▲1.8ポイントや岡山県▲2.8ポイントに対して、本市は▲1.3ポイントの減少幅にとどまっており、全国的な人口減少の流れの中では比較的緩やかな推移となっている。

基本目標④ 地域をつなぎ、安心して暮らせる持続可能なまちづくりを進める

KPI(重要業績評価指標)の実績一覧

ア スポーツ活動を推進する

No.	KPI(重要業績評価指標)	単位	基準値	目標値	実績値		
			R元	R7	R3	R4	R5
1	週1回以上スポーツをしている成人の割合	%	42.9	50	44.3	41.7	40.5
2	倉敷市スポーツ情報サイト「Kurashiki Sports Navi」の閲覧数	件	438,581	700,000	332,318	572,534	711,909

イ 地域の環境と経済・社会が調和した、持続可能なまちづくりを推進する

No.	KPI(重要業績評価指標)	単位	基準値	目標値	実績値		
			R元	R7	R3	R4	R5
3	環境学習満足度	%	88.9	90.5	87.5	91.6	92.3
4	身近なところで、生き物(動物、昆虫や植物など)にふれあえる場や機会(イベントを含む)があると思う人の割合	%	32.8 (R2)	38	27.6	26.0	24.6
5	身近な地域の緑の量が多いと感じている人の割合	%	35.1	37.1	30.0	31.7	27.7

ウ 防災・減災意識を高め、災害に強いまちをつくる

No.	KPI(重要業績評価指標)	単位	基準値	目標値	実績値		
			R元	R7	R3	R4	R5
6	自主防災組織カバー率	%	73.3	90	78.1	79.0	80.3
7	地区防災計画の取組件数	件	14	150	34	34	38
8	災害発生時のために、日頃から家族で備えをしている人の割合	%	58.3	90	61.3	63.0	60.6
9	防災訓練や防災教育の実施件数	件	109	300	47	140	404

○「網かけ」をした行は、令和7年度の目標達成に向けて順調に進捗しているA評価の指標です。

※1 令和7年度目標値の達成に向けた「実績値の評価」
 A 評価：順調に進捗している
 B 評価：遅れはあるが、基準値より改善している
 C 評価：基準値と変わらない、または悪化している

※2 地方創生を推進する事業やKPIの実績値の算出方法は「行政評価結果報告書」(別冊)を参照

実績値		目指す方向性	実績値評価※1	上段:評価結果の要因として考えられること 下段:今後の取組方針	施策番号※2
R6	R7				
-	-	増加	C	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍を経て運動・スポーツを実施する人の割合が減少したと考えられる。 スポーツ基本計画に掲げる具体的な施策を今後も継続的に推進していく。 	2-3
-	-	増加	A	<ul style="list-style-type: none"> サイトに積極的に情報を掲載するとともに、SNSでの情報発信を強化したためだと考えられる。 スポーツ基本計画に掲げる具体的な施策を今後も継続的に推進していく。 	2-3

実績値		目指す方向性	実績値評価※1	上段:評価結果の要因として考えられること 下段:今後の取組方針	施策番号※2
R6	R7				
-	-	増加	A	<ul style="list-style-type: none"> 出前講座を中心とした講座内容改善の効果が考えられる。 継続して実施する。 	3-1
-	-	増加	C	<ul style="list-style-type: none"> イベント参加者数などは増加しているため、イベント等の機会を知ることでできる情報が広く届いていないと思われる。 公式アプリや地元メディアの出演などのほか、親子連れをターゲットに関係団体に働きかけるなど、市民への情報発信を工夫し、生き物にふれあえる機会を広報する。 	3-1
-	-	増加	C	<ul style="list-style-type: none"> 緑に触れ合う機会の減少や、総量としての緑地の面積は増加しているが、緑の量の増加を実感させるまでには至っていないといった要因が考えられる。 魅力的な緑化イベントを実施する。公共施設の緑化や民有地緑化補助金を活用した民有地の緑化を推進する。 	3-1

実績値		目指す方向性	実績値評価※1	上段:評価結果の要因として考えられること 下段:今後の取組方針	施策番号※2
R6	R7				
-	-	増加	B	<ul style="list-style-type: none"> 継続的な出前講座等の啓発事業により、自主防災組織の必要性への理解が進んでいるものと考えられる。 出前講座等を活用して自主防災組織のさらなる結成促進と活動活性化を支援するため、継続して啓発を行う。 	3-5
-	-	増加	B	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で組織の活動が途切れた後、これまで取り組み中だった組織の多くが計画を最初から立て直すことになったため。 参考となる事例の紹介や、地域に向いて話し合いに参加するなど、作成支援を行う。 	3-5
-	-	増加	B	<ul style="list-style-type: none"> 能登半島地震をきっかけに、非常備蓄品の具体的な内容等が報道される中、災害に対する備えができていないことを認識された方が増えたものと考えられる。 出前講座などを行うとともに、防災普及・啓発イベント「くらしき防災フェア」を実施し、防災意識の向上を図る。 	3-5
-	-	増加	A	<ul style="list-style-type: none"> 既存の自主防災組織が、各自で防災訓練を行うようになり、訓練に対して意識が向上したのと考えられる。 引き続き、地域の防災力強化を目的に、防災訓練や防災教育を実施する。 	3-5

基本目標④ 地域をつなぎ、安心して暮らせる持続可能なまちづくりを進める

KPI(重要業績評価指標)の実績一覧

エ 各地域・地区の中心部の利便性が向上するまちづくりを推進する

No.	KPI(重要業績評価指標)	単位	基準値	目標値	実績値		
			R元	R7	R3	R4	R5
10	倉敷駅を中心とする中心市街地における歩行者・自転車通行量	人	116,656	124,000	65,807	89,359	-
11	自分の住んでいる地域に魅力があると感じている人の割合	%	35.2	49	36.9	37.9	36.7

オ 地域の特徴が生かされ、だれもが住みやすい生活を支援する

No.	KPI(重要業績評価指標)	単位	基準値	目標値	実績値		
			R元	R7	R3	R4	R5
12	現在住んでいるところが住みやすいと感じている人の割合	%	57.5	64	62.7	61.3	60.4
13	地域の歴史やまちづくりに関心をもっている人の割合	%	33.9	48	32.7	30.9	29.3

カ だれもが取り組める健康づくりを支援する

No.	KPI(重要業績評価指標)	単位	基準値	目標値	実績値		
			R元	R7	R3	R4	R5
14	健康寿命【男性】	歳	79.9	現状より延伸	80.1	80.6	80.3
15	健康寿命【女性】	歳	83.9	現状より延伸	84.1	84.6	84.5

キ だれもが安心して利用することができる救急・医療環境を整える

No.	KPI(重要業績評価指標)	単位	基準値	目標値	実績値		
			R元	R7	R3	R4	R5
16	身近にかかりつけ医がいる人の割合	%	70.3	75	70.6	73.1	73.6

ク 障がい者が社会参加でき、住み慣れた地域で安心して暮らすことのできる生活を支援する(再掲)

No.	KPI(重要業績評価指標)	単位	基準値	目標値	実績値		
			R元	R7	R3	R4	R5
17	障がい福祉サービスにより地域全体で支えられていると思っている障がい者や家族の割合	%	22.5 (H30)	27	25.3 (R2)	-	28.3

○「網かけ」をした行は、令和7年度の目標達成に向けて順調に進捗しているA評価の指標です。

※1 令和7年度目標値の達成に向けた「実績値の評価」
A 評価：順調に進捗している
B 評価：遅れはあるが、基準値より改善している
C 評価：基準値と変わらない、または悪化している

※2 地方創生を推進する事業やKPIの実績値の算出方法は「行政評価結果報告書」(別冊)を参照

実績値		目指す方向性	実績値評価※1	上段：評価結果の要因として考えられること 下段：今後の取組方針	施策番号
R6	R7				
-	-	増加	-	※調査は隔年実施。次回は令和6年8月に調査。	3-8
-	-	増加	B	※60歳代以上において、魅力があると感じている人の割合が他世代と比べて低くなっているため、高齢者が地域の魅力を再発見できるような機会が不足していると考えられる。 ※地域の魅力を生かした事業を引き続き展開し、あらゆる世代の地元住民が魅力を再発見する機会を創出する。	3-8

実績値		目指す方向性	実績値評価※1	上段：評価結果の要因として考えられること 下段：今後の取組方針	施策番号
R6	R7				
-	-	増加	B	※生活環境の向上につながる事業の効果が概ね表れていると考えられる。 ※生活環境の向上につながる事業を今後も継続して行っていく。	3-10
-	-	増加	C	※新型コロナウイルス感染症の影響もあり、地域の歴史・文化・特産品などの地域資源に触れる機会が少なく、まちに興味・関心を抱ききつかけが不足していると考えられる。 ※出前講座や地域の魅力を体験できる場づくりなどを通じ、まちに目を向けるきっかけを作るとともに、地域の特徴を生かした住民主体のまちづくり活動を支援する。	3-10

実績値		目指す方向性	実績値評価※1	上段：評価結果の要因として考えられること 下段：今後の取組方針	施策番号
R6	R7				
-	-	増加	A	※国平均は延伸。厚労省はがん・心臓病・脳卒中等の発生率低下をあげる。喫煙率低下や高齢者社会参加拡大も一因と考えられる。 ※新計画においても市の健康課題である糖尿病と高血圧症への取組強化を継続、庁内外関係機関と連携し推進する。	4-1
-	-	増加	A	※国平均は延伸。厚労省はがん・心臓病・脳卒中等の発生率低下をあげる。喫煙率低下や高齢者社会参加拡大も一因と考えられる。 ※新計画においても市の健康課題である糖尿病と高血圧症への取組強化を継続、庁内外関係機関と連携し推進する。	4-1

実績値		目指す方向性	実績値評価※1	上段：評価結果の要因として考えられること 下段：今後の取組方針	施策番号
R6	R7				
-	-	増加	A	※新型コロナウイルス感染症の流行が、かかりつけ医に対する意識の高まりに寄与したものと考えられる。 ※地域医療普及啓発事業等を通じ、引き続きかかりつけ医に対する意識を高める。	4-3

実績値		目指す方向性	実績値評価※1	上段：評価結果の要因として考えられること 下段：今後の取組方針	施策番号
R6	R7				
-	-	増加	A	※各事業所の相談支援体制が機能していると考えられる。 ※関係機関の連携を図りながら、身近な窓口の充実と専門的な支援へとつなげる体制づくりを推進する。	4-4

基本目標④ 地域をつなぎ、安心して暮らせる持続可能なまちづくりを進める

KPI(重要業績評価指標)の実績一覧

ケ 高齢者が住み慣れた家庭や地域で安心して暮らすことのできる環境を整える

No.	KPI(重要業績評価指標)	単位	基準値	目標値	実績値		
			R元	R7	R3	R4	R5
18	高齢者支援センターの相談件数	件	101,230	102,500	108,102	104,195	110,395
19	認知症サポーター養成講座受講者数	人	3,723	4,000	1,687	2,506	3,722

コ 市民自らが、地域の課題を解決できるように支援する

No.	KPI(重要業績評価指標)	単位	基準値	目標値	実績値		
			R元	R7	R3	R4	R5
20	地域やコミュニティの中で、困っているときに相談できる人がいると思っている人の割合	%	48.4	55	49.2	46.4	48.7
21	地域の課題に対して、自分たちでできることは地域コミュニティで解決しようと考えている人の割合	%	52.3	60	48.6	47.7	47.6

サ ボランティア・NPO などの自立的かつ公益的な活動を促進する

No.	KPI(重要業績評価指標)	単位	基準値	目標値	実績値		
			R元	R7	R3	R4	R5
22	市民活動団体と協働で実施された事業数	件	145 (R3)	210	145	160	163
23	地域の課題を解決するためには、ボランティア・NPOの市民活動が必要だと考えている人の割合	%	46.0	55	48.0	43.6	45.4

シ 市民・企業・団体など一体となってSDGsの取組を推進する

No.	KPI(重要業績評価指標)	単位	基準値	目標値	実績値		
			R元	R7	R3	R4	R5
24	倉敷市・高梁川流域SDGsパートナーの登録数	件	0	150	205	341	434

○「網かけ」をした行は、令和7年度の目標達成に向けて順調に進捗しているA評価の指標です。

※1 令和7年度目標値の達成に向けた「実績値の評価」
A 評価：順調に進捗している
B 評価：遅れはあるが、基準値より改善している
C 評価：基準値と変わらない、または悪化している

※2 地方創生を推進する事業やKPIの実績値の算出方法は「行政評価結果報告書」(別冊)を参照

実績値		目指す方向性	実績値評価※1	上段:評価結果の要因として考えられること 下段:今後の取組方針	施策番号※2
R6	R7				
-	-	増加	A	> 高齢者支援センターが身近な総合相談窓口として定着してきたため。 > 引き続き地域の高齢者や家族などからの介護・健康・医療に関する総合相談窓口として、周知を図っていく。	4-6
-	-	増加	C	> 新型コロナウイルス感染症の影響により地域の団体が活動を自粛していた状況から、徐々に活動を再開する団体が増えたほか、学校等新たな対象者への実施の機会が増えたためと考えられる。 > 地域住民だけでなく、学校や高齢者と接する機会が多い企業等での養成講座を拡大する。	4-6

実績値		目指す方向性	実績値評価※1	上段:評価結果の要因として考えられること 下段:今後の取組方針	施策番号※2
R6	R7				
-	-	増加	B	> 新型コロナの5類移行により、住民同士が繋がる機会が緩やかに回復したことが要因と考えられる。 > コミュニティ協議会に対する研修会の実施や補助金交付により、地域での課題解決の仕組みづくりや活動の活性化、地域で支え合う意識の醸成を図る。	5-1
-	-	増加	C	> 地域の課題解決の取組が進められている一方で、地域の活動に無関心な住民が増えていることが要因と考えられる。 > 課題解決ワークショップを通して交流や地域課題の共有を図り、新たな活動の担い手や人材を発掘する契機とする。	5-1

実績値		目指す方向性	実績値評価※1	上段:評価結果の要因として考えられること 下段:今後の取組方針	施策番号※2
R6	R7				
-	-	増加	B	> 新型コロナの5類移行により、イベントをはじめとする市と共催して実施する事業が増加したことが要因と考えられる。 > 職員向けの協働研修やワークショップを通じ、市民と行政による協働事業の必要性の周知や実施の促進を図る。	5-2
-	-	増加	C	> 新型コロナの5類移行により、地域課題の解決に向けた活動が徐々に再開し、ボランティアやNPO等に協働を求める機会が増加したことが要因と考えられる。 > ワークショップ等を通して交流や地域課題の共有を図り、新たな活動の担い手や人材を発掘する契機とする。	5-2

実績値		目指す方向性	実績値評価※1	上段:評価結果の要因として考えられること 下段:今後の取組方針	施策番号※2
R6	R7				
-	-	増加	A	> 住民向けのイベントや事業者向けセミナーを通して広く周知でき、パートナー同士の普及にもつながったため。 > パートナーの強みやリソースを可視化し、パートナー間で取組が共有できる仕組みを構築する。	5-7

KPIについては「環境学習満足度」「防災訓練や防災教育の実施件数」「倉敷市・高梁川流域SDGsパートナーの登録数」など、37.5%（24指標のうち9指標）が順調に進捗している。今後も、地区の防災活動の促進、防災教育の推進、浸水対策の強化を進めるとともに、南海トラフ地震に備えたライフライン等の耐震化推進など、本市の国土強靱化に取り組むことにより、災害に強いまちづくりを推進していく。また、地域コミュニティの活動支援、市民が健康で充実した生活を送れる健康長寿の取組、さらにはSDGsの取組を推進することにより、みらいに向かって持続可能なまちづくりを進めていく。

外部有識者の御意見

本報告書にまとめた令和5年度実績に対して、下表の「倉敷市まち・ひと・しごと創生有識者会議」の構成団体から、外部有識者として、4つの基本目標ごとに御意見をいただいています。（次頁以降を参照）

なお、いただいた御意見については、施策等を所管する部署と共有するとともに、今後、新たな地方創生の取組の検討や、倉敷みらい創生戦略の見直しに活用いたします。

産業界

○倉敷商工会議所	○児島商工会議所
○玉島商工会議所	○真備船穂商工会
○つくば商工会	○JA晴れの国岡山 岡山西統括本部
○公益社団法人 倉敷観光コンベンションビューロー	

学術界

○岡山学院大学・岡山短期大学	○倉敷市立短期大学
○倉敷芸術科学大学	○くらしき作陽大学
○岡山大学資源植物科学研究所	○中国職業能力開発大学校

金融界

○株式会社 中国銀行 倉敷支店	○株式会社 トマト銀行 倉敷営業部
○水島信用金庫	○玉島信用金庫
○株式会社 日本政策金融公庫 倉敷支店	

労働界

○連合岡山 倉敷地域連絡会	○倉敷中央公共職業安定所
---------------	--------------

言論界

○株式会社 山陽新聞社 倉敷本社	○NHK岡山放送局
○株式会社 倉敷ケーブルテレビ	○玉島テレビ放送 株式会社
○株式会社 エフエムくらしき	

基本目標① 結婚・出産・子育ての希望をかなえる

外部有識者の御意見

保育所等の待機児童数は改善している。市の努力が大きいと感じる。育児休業制度は男女とも国全体で定着したことで増加してきた。前向きにとらえたい。ただ、子育ての中身については、「一人で悩まないで」という呼びかけはメディアやSNSなどを通じて実施しても、届かない人が一定数はいると思う。相談できる人がそばにいない人も多そうだ。児童相談所や警察と連携し、絶対的な貧困に陥らないようにする努力や、家庭内暴力にさらされているなど緊急性の高いケースでの救出は必要だが、それ以外のケースは数値目標に固執することなく、あせらずに地道に普及を目指せばいいのではないかと。

子ども教室や地域活動をより活発化させるためには、ボランティア不足の解消が求められ、シニア層の活用が改善策のひとつとなるのではないかと。学生等も含めすべての世代に関わりを持ち、地域の子育て力を高めていただきたい。保護者支援にも、シニア層が果たす役割はあると思う。

「子育てを家族で協力して行っている人の割合」について、核家族化が進む中で祖父母の支援を受けられない世帯も増加している。家族の範囲の定義次第では数値も大きく変動するものとする。

合計特殊出生率は低下の一途にある。全国的にも同じ傾向にあり、改善には特段の努力が必要。行政にできることは限られるが、ライフステージ毎の問題点を分析して改善する必要がある。ライフステージ毎に問題点と思われることは、男女の出会い(機会)→結婚(住居、住宅取得)→出生(第1子と第2子以上)→子育て(学校と学校外の教育)などが挙げられる。

「子どもの学校での教育がしっかりできていると感じている人の割合」、「学校が楽しいと思う子どもの割合」ともに基準値より改善していることは評価できる。「保育所等の待機児童数」激減については、施設整備及びAIを活用した入所事務支援システムの運用によるきめ細やかな入所案内が奏功しており、「これまで育児休業を取得したことがある人の割合」が増加したことについては、企業の制度整備やワークライフバランスへの気運が醸成されてきたことが要因と考えられ、いずれも高く評価されることである。

子育て世代は教育費用の負担など将来の経済的不安から出産をためらう傾向にある。「子育てしやすいまち倉敷」を早急に目指し、確立すべきである。未婚晩婚対策として、若者の出会いの場をどしどし創出すべきと思う。

子育てと仕事の両立では、保育所等の待機児童数の減少、育児休業を取得した父親・母親の増加傾向が見られ、子育てと仕事の環境整備が促進されていると感じられる。しかし、安心して出産・子育てのできる環境では、子育ての相談ができること、子育てを家族で協力している割合が減少している等の課題があるのではないかと。これからも、地域社会全体での子育て支援、安心して結婚・出産・子育てができる環境整備をしていただきたい。

合計特殊出生率は1.38となっており、減少傾向である。要因として子育てにおける不安があるためと考えるが、現段階の政府の方針では子育てにおける不安を一掃することはできず、合計特殊出生率を向上させることは困難であるとする。KPIの目標達成分析(量的データ)は重要であるが、それで、子育てにおける不安が解消されるのか不明瞭である。子育て不安の生の声(質的データ)が求められるのではないかと。そこで、質的データを得るために、婚姻届の提出者などに実際に子育てに対する期待と不安に関するアンケートを実施し、期待を高め不安を解消するような冊子を作成し配布してはどうか。「安心して出産・子育てできる環境を整える」及び「学校、園、地域、家庭が連携して子どもたちを見守り、安全・安心に成長できる環境を整える」の実績評価がCであることを受け、高等教育機関を戦略に加えてみてはどうか。

基本目標② 受け継がれた歴史・文化の魅力を発信し、ひとを惹きつける

外部有識者の御意見

文化芸術活動を行っている人や文化施設の利用者数が予想以上に少ないと感じた。旧倉敷、児島、玉島などそれぞれの文化遺産を、地域ごとに守っている人の存在を感じる。ただ、藩も産業構造も違う歴史を歩んできたのだから仕方ない部分があると思うが、統一感がない。同じ倉敷市として、ともに紡いできた歴史を大きな物語として示すことが、一体感醸成に寄与する。北前船の日本遺産登録などはその取組の一つだと思うが、それぞれの地域の人たちに誇るべき全体像としてまだまだ浸透していないのではないかと。倉敷の全国的知名度は高くシティセールスはやりやすいと感じるが、宿泊施設が不足しているため、短時間の観光にとどまっているように見える。

歴史的・伝統的景観の保全が、必ずしも移住・定住に繋がるものではないことが読み取れる。それらは観光客を引き寄せる要素であるかもしれないが、居住者にとっては整備された町の美しさや心理的なゆとり、交通渋滞の緩和などが優先度の高い要素だと思われる。

移住促進など魅力発信の効果が出ており、今後期待ができる。一方で市内居住者に文化・歴史を知ってもらいイベントや情報発信が必要と考える。

倉敷市は素晴らしい観光地を有しているが、魅力を十分にPRできていない。行政による広告には限界があることから、一般市民によるSNS発信などを促進し誘客する仕組が導入できないか。「HITひろしま観光大使」のように条件は「広島が好き」だけで就任するのにハードルが低い制度や、「高知県観光大使」のように「特使の名刺を持参すれば他の人も観光施設観覧無料」という「配りたくなる」「行きたくなる」制度を導入すれば、観光に関する興味が増進され一般市民が広く発信する機会が増えるのではないかと。

倉敷の歴史・文化の魅力は過去遺産から多くの資産があり、外部にも倉敷市民へも十分に発信できていると思う。子供たちが将来も自慢できる「倉敷」を発信してほしい。

「シティセールスに関するタグ付けをされている投稿回数(累計)」、「移住定住施策を通じた移住世帯数(累計)」が大幅に伸びており、高く評価されることである。これらは秀逸な投稿へのリポストをこまめにを行うことによる拡散効果が上向き、また、情報発信への注力と移住体験ツアー等の有効な活用により、お試し住宅の稼働が促進されており、高く評価できる。本学においても、他市からの通学が大変で移住したいと言う学生もいる程である。

観光客を呼び込む為に各観光地へ駐車場を整備する必要がある。駐車場の位置もわかりやすく明示すべきである。歴史文化はもちろん大事であるが、若者にとって魅力あるものを発信するのも大事と思う。

文化芸術活動の振興では、コロナ以前の数値に戻つつあるようで、今後、鑑賞する方や、文化施設の利用者数の増加が期待できると思う。歴史や文化の伝承と保存では、後世に伝えたい歴史文化や伝承が継承されていると思っている人が多く、引き続き、倉敷市内の文化財等の保全と活用にも努めていただきたい。倉敷市の魅力発信や受け入れ環境の整備では、観光需要の回復によるインバウンド誘客に向けての施策の取組の強化、移住等の促進に努めていただきたい。歴史的・魅力的な景観の形成では、倉敷市の景観がよくなったと感じている人の割合が多くなっており、さらに魅力あるまちとして、景観の保全に努めていただきたい。

対三大都市圏への流出問題は、今後も加速すると考えている。内訳については、現資料からは不明であるが、18歳人口が多いと推測し、特に、大学進学で大阪圏への人口流出が加速していると思う。岡山県の高等教育機関の責任という見方もあるが、地域貢献を中心とする学部学科が多岐にわたるという限界がある。そこで、姉妹友好都市連携を有効に活用して、倉敷市全体で外国人留学生を増やすための仕組みを構築するのはどうか。姉妹友好都市の外国人留学生が、SNSを使って文化都市「Kurashiki」の文化・教育・スポーツ・産業などの幅広い分野の魅力を発信することで、相乗効果で外国人留学生の増加が期待できる。対三大都市圏に限定しない社会増減は増えており、上記を取り入れることで、より倉敷市の魅力の発信をすることができる効果が生まれると思う。また、他市で行っている保育園留学の取組をしてみてもよいかもしれない。

日本の伝統的酒造りが、無形文化遺産になったことを受け、倉敷市の活性化を図るための大きなチャンスが出てきた。倉敷市が中心となって、倉敷市の酒蔵と提携し20歳以上の外国人観光客(外国人留学生)に酒造り体験ができるパッケージを行うことで、伝統のある日本酒造りに携わりたいという職人が増加するのではないかと。井原鉄道の取組にも相乗効果が生じるため、高梁川流域圏の活性化につながると思う。

基本目標③ 安心して働ける場をつくり、多様な人材の活躍を推進する

外部有識者の御意見

<p>水島コンビナートが順調なので、サプライチェーンを受け持つ地場企業も恩恵を受けているように感じる。一方、土木、介護などを中心に、人材不足が深刻で、そちらの解決に力を尽くすべきではないか。新規創業の部分は、県内では岡山市に集中しているように見える。美観地区や児島で若い人の出店も続いているようだが、イノベティブな起業を後押しする仕組みがあれば、先進的な若い人たちを呼び込むきっかけにならないだろうか。新規就農者の増加は歓迎したい。さらに後押ししてほしい。</p>
<p>子育てと仕事の両立の環境整備が進められるなか、これから地域社会の活力を高めていくには、高齢者と障がい者の社会参加がカギとなってくる。そのために、若い世代がつなぎ役として各種社会活動への参画を活性化させ、地域全体で支えていくことに期待したい。</p>
<p>「市内高等教育機関(大学・短期大学等)卒業生の市内就職率」について、市内大学等へ通っている学生の割合は県内居住者が多いと考えているが、県外に就職しているのか疑問である。市内企業の魅力を知ってもらうにはもっと下の世代からのアプローチが必要と考える。</p>
<p>創業サポートセンターによる支援事業を周知し、各構成機関が連携し得意分野を活かして支援できるよう一層努めてまいりたい。</p>
<p>今後も、若者の市内への勤務の促進、女性労働者数の増加、高齢者の就労先の確保等々、倉敷市と協力しながら進めていきたいと考えているので、今後ともよろしくお願ひしたい。</p>
<p>古くは繊維のまちとして、そこから成長・発展した企業や下請け企業群が多くある。水島工業地帯には世界的企業が立地しており、同じく下請け企業群を形成している。安心して働ける場に多様で性別に関係ない人材を引き付けている。</p>
<p>「倉敷市役所でのインターンシップ受入」に関して、魅力的な職員採用PR活動などの強化が奏功し、興味を持つ学生が増加し有り難く思っているが、一方で「市内高等教育機関(大学・短期大学等)卒業生の市内就職率」が徐々に低く、申し訳ないと感じている。大学教育の中でさらに、働く地としての倉敷の魅力をよりいっそう伝えるよう努めてまいりたい。</p>
<p>産官学が連携して若者を都会へ逃がさないよう知恵をしぼることが大事である。学生は都会志向であるが、地元愛着はあるので、在学中にやりがいのある仕事や地元の企業の魅力をしっかり伝えるなど、情報を学生に与えることが大事である。</p>
<p>「男は仕事、女は家庭」の考え方に同感しない割合が増えており、また働いている職場が、子育てに対する理解があると思っている割合も増加していることから、働き方改革の認識が進んでいると考えられる。職場での女性の活躍や、男性の育児参画などの気運を高めるような取組を実施していただきたい。新規就農者数が増加する一方、漁業者では、所得低下による事業継続に影響が出ていると考えられる。例えば、観光とコラボすることなどの手段により、漁業を守っていただきたい。</p>
<p>在住外国人を増やすためには、ファーストコンタクトを倉敷市にする仕組みを作ることが重要だと考える。ファーストコンタクトにつながる姉妹友好都市との連携を強化することで、外国人の割合が増えるかと思う。市内高等教育機関卒業生の市内就職率について、要因はそのとおりであるが、高等教育機関との連携は形のみでは難しいと考える。地域貢献に係る教育やキャリアガイダンスなどのキャリア教育に貢献する具体的な方針が求められる。高等教育機関と連携して、リスキング支援の教育をしつらいかがか。資格の取得をゴールとすること、授業等で修得したことを社会参加に活かすことができるので、社会参加している高齢者の割合が増えてくるかと思う。また、連携以上のことが求められるが、高齢者に入学金と授業料などの補助を行うことで、若い学生との交流ができ、活力につながると思う。</p>

基本目標④ 地域をつなぎ、安心して暮らせる持続可能なまちづくりを進める

外部有識者の御意見

<p>指標が総花的で年齢層もイメージしにくい。倉敷市は、医療、介護などの分野は民間中心に高いレベルにあって充実している。高齢者の満足度は高いのではないかと。一方、地域とのつながりが希薄な若い世代に関しては、情報不足もあって、本来なら利用できる行政サービスを知らずに過ごしている人も多い感じがする。高齢者が安心して快適に暮らしているなら、行政目標は一定以上達成しているともみられるべきだろう。あとは高齢者と若者を橋渡しし、ともに楽しみながら過ごすことができるまちづくりに知恵を絞ってほしい。</p>
<p>防災訓練や防災教育の高まりが見られることは大変好ましい。NHKの調査によると、岡山県はNHKの情報発信に期待する項目として、「地域の安心・安全」の割合が最も高くなっている。大雨のみならず南海トラフ地震による津波被害も想定し、具体的な行動を促す啓発に進化させていただきたい。</p>
<p>岡山県が災害の少ない県であるため防災意識の醸成には時間が必要と考える。地域の魅力を感じていない人には、魅力を感じてもらえるようなイベントや取組が必要と考える。例えば、岡山県なら「晴れブランド」のように「倉敷ブランド」を作るといった取組はどうか。</p>
<p>地震や風水害など自然災害への備え、医療環境の充実、高齢者が安心して暮らせる倉敷市であって欲しい。</p>
<p>「スポーツ情報サイト閲覧数」、「防災訓練や防災教育の実施件数」、「高齢者支援センターの相談件数」、「倉敷市・高梁川流域SDGsパートナーの登録数」が大幅な伸びを示しており、各担当部署のたゆまぬ情報発信や市民に寄り添った対応を定着させて来られた尽力の成果と受け止めている。</p>
<p>健康で長生きするため、スポーツを週1回以上できるような施策を行っていただきたい。また、救急・医療環境が整うことにより、健康寿命は男性・女性ともに延びており、今後も健康づくりを中心とした支援活動をお願いしたい。防災訓練や防災教育の実施件数の増加により、自主防災組織の意識の向上につながっていると思う。今後も、災害に強いまちづくりを推進していただきたい。</p>
<p>KPIの20・21について、高等教育機関との連携が不可欠である。地域課題解決人材の養成は、地域に所在する高等教育機関の使命でもある。</p>